

第1学年1組 算数科学習指導案

令和8年1月29日(木) 第3時限 場所 1年1組教室

1 単元 大きいかず(本時 10/13)

2 本時の目標

数の合成や分解をいかして、いろいろなお金の出し方を考えることができる。(思考力・判断力・表現力等)

3 学びを深める子供を育むための手だて(手だて⑥)

数の構成を多面的にとらえ、数感覚を豊かにするために、いろいろなお金の出し方を紹介したり、模型硬貨を使って買い物の疑似体験をしたりする場を設定する。

4 展開

(下線部は本校の研究にかかわる手だて)

段階	児童の活動	教師の活動
導入 (5)	1 硬貨や模型の硬貨を見て、お金の種類を確認する ・5円玉と50円玉には穴が開いているね。 ・1と5がつくお金ばかりだね。 ・1円玉が10枚で10円になるよ。	・実物の硬貨と模型硬貨を提示し、それぞれの硬貨の特徴や何円の価値があるのか共通認識を図る。
課題 (2)	2 本時の学習課題を把握する お金の出しかたをかんがえて、かいものをしよう	・本時の学習課題を設定する。
展開 (33)	3 28円のガムを買うときの、お金の出し方を考える ・10円玉を2枚と1円玉を8枚出せばいいのかな。 ・5円玉1枚と1円玉3枚でも8円になるね。 ・お金の数が少ない方が、数えやすいね。 4 買い物の疑似体験をする 《買い物のルール》 ・お客さんは欲しいものを伝え、お店屋さんに値段を聞いてからお金を出す。 ・お店屋さんは、お金を数えて確認してから品物を渡す。 ・おつりが出ないように、ぴったりの金額を出す。 ・お金を両替するときは、銀行に行く。 ・36円の6円は5円玉と1円玉で出すと数えやすいね。 ・50円玉がないから10円玉を5枚出そうかな。 ・100円玉を出すとおつりが出るから、銀行で10円玉を10枚に両替してもらおうと買えるね。	・個で模型硬貨を使って28円のお金の出し方を考え、 <u>どんな出し方をしたのかチームで確認し合う場を設定する。</u> ・28の数の構成が分からない児童には、既習である「10がいくつと1がいくつ」を使って考えるよう助言する。 ・ <u>異なる出し方をした児童を意図的に指名することで、いろいろな出し方があることを紹介する。</u> ・1つのグループがお客さんになり、2つのグループがお店屋さんとなるよう3グループに分け、交代で買い物をする時間を設定する。 ・買い物のルールを提示し、模範演技をする。 ・100円→10円玉を10枚、10円→1円玉を10枚などに両替できるよう銀行コーナーを設ける。 ・同一硬貨を多数出している児童には、効率的な出し方がないかと声かけをする。 ・お金の出し方が分からないときは、お店屋さんに教えてもらってもよいことを助言する。 ・数の構成・分解を考えて効率的にお金を出している児童を称賛する。
整理 (5)	5 本時の振り返りをする お金の出し方がいろいろあることが分かったよ。正しくお金が出せてよかったな。今度は、自分で本物のお金を出して買い物をしたいな。	・硬貨の組み合わせがいろいろあることに気づき、日常生活の買い物に生かそうという思いをもった児童を意図的に指名し称賛する。 ・日常の買い物では持参金の種類や枚数によって出し方を考える必要があり、いろいろな出し方を考えておくことが大切であることを伝える。

5 評価

買い物体験を通して、数の合成や分解を考えてさまざまな硬貨を組み合わせ、品物の値段と同じ金額のお金を出すことができたか。(活動3、4の活動や5の記述から)